平成21年1月吉日

甲府中学・甲府一高
東京同窓会会員 各位

一紅会会長　飯 田 冨美子

一紅会 主催

第 12 回『春の講演会』開催のご案内

新しい年を迎え、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも一紅会活動に深いご理解と温かいお力添えを賜りまして誠にありがとうございます。

お陰様で　早12回目になります『春の講演会』を、別紙ちらしでご案内のとおり3月7日(土)に開催いたします。時節柄ご多用とは存じますが、是非皆様お誘い合わせてお越しくださいますよう心をこめてご案内申し上げます。

今回は、筑波大学教授　守屋正彦先生（46年卒）に日本の中世の文化について、とりわけ当時高い水準にあった甲斐の国の文化のお話をして頂きます。

“中世のトップリーダー　～甲斐の国、その素晴しい文化～”

ときめくような演題です。

きっとふるさとの素晴らしさを再発見し、甲州人としての誇りを喚起されるものと存じます。また守屋先生は山梨県立美術館創設に際しましてミレーの絵画導入にご尽力されたと伺っております。

蘊蓄横溢なご講演を今から大変楽しみにしています。

私どもの講演会が「同窓文化」の支点として、更に高揚発展しますように魅力ある企画を以って、皆様のご期待に添うべく努力いたす所存でございますので、この上ともご指導ご支援をお寄せくださいますよう衷心よりお願い申し上げます。

3月7日(土)アルカディア市ヶ谷にて皆様のご来場をお待ち申し上げます。

【第 12 回　講演会プロジェクトメンバー】

竹中みゆき（43　副会長）	三田富貴子（44　会計）	井 上 若 子（30）
水 谷 園 江（40）	山 下 惠 子（46）	矢 嵜 裕 子（46）
西 野 公 子（46）	山 田 陽 子（47）	小 川 早 苗（47）
佐藤みどり（47）	鷹 野 由 香（56）	神谷ひとみ（56）

（　）内数字は卒業年次

一紅会主催　第12回『春の講演会』

中世のトップリーダー

～甲斐の国、その素晴しい文化～

私たちはふるさとについてどれだけ知っているでしょうか。
　近年、大河ドラマの影響で甲府の街には風林火山の旗がはためき、日本中の注目を集めましたけれども、それだけではありません。実は日本の中世文化は、都からではなく、甲斐の国から発信され伝播されたと知ったら、わくわくしませんか。甲斐の国には、都を凌ぐほどの知られざる素晴しい芸術文化があったのです。この講演で、ふるさとを再発見し、「山梨に生まれてよかった」と思ってもらえることを願っています

講師　筑波大学教授　**守屋 正彦** 氏
（昭和46年卒）

プロフィール

1952年山梨県に生まれる。
昭和46年甲府一高卒業。
京教育大学大学院教育学研究科芸術学専攻修了、博士（芸術学）。山梨県立美術館学芸課長を経て、筑波大学大学院人間総合科学
研究科教授。

著書

「すぐわかる日本の仏教美術・彫刻・絵画・工芸・建築」「すぐわかる日本の絵画」「近世武家肖像画の研究」「日本美術図解事典」

日時：　**平成21年3月7日（土）**
13:00～16:30（12:30開場）
講演会(13:00～14:30)終了後、
引き続き**懇親会**を行います

会費：　**4,000円**
懇親会（ロリポップパーティ）費を含む
＊飲み物、軽食を用意しております。

会場：　**アルカディア市ヶ谷（私学会館）3F　富士の間**
千代田区九段北4-2-25（下記地図参照

東京メトロ　有楽町線・南北線 市ヶ谷駅A1-1出口 徒歩2分
都営地下鉄 新宿線 市ヶ谷駅A1-1、A4出口 徒歩2分
JR中央・総武線 市ヶ谷駅 徒歩2分

第12回「一紅会」主催春の講演会

中世のトップリーダー

～甲斐の国、その素晴しい文化～

日　時　：　平成21年3月7日（土）　13:00～14:30

会　場　：　アルカディア市ヶ谷

講　師　：　筑波大学教授　守屋　正彦氏

中世の甲州力　トップリーダーの活躍

壬生忠峯や凡河内躬恒ら歌仙が滞在した甲斐の国は、古代に、日本武尊が「新治筑波を過ぎて幾夜か寝つる」と歌い、火焚きの翁が歌を返した「連歌発祥の地」である。古今集の賀歌「志保の山」は都人に親しまれ、遥か遠くより歌の地を想い、硯箱、手箱、文台、太刀拵えなどに見られる蒔絵意匠（図1）の傑作が中世には数多く制作された。

平安後期には清和源氏が土着。三組の阿弥陀三尊像（韮崎、願成寺ほか）が武田氏領に、安田氏の奉納になる大日如来をはじめとする密教像が塩山放光寺に伝えられ、優れた京文化の受容が認められる。中世に入ると鎌倉往還を通じて禅宗がいち早く流入し、塩山向岳寺には国宝の「達磨図」（図2）が伝来し、わが国禅宗の幕開けを飾る象徴的な逸品として貴重である。その頃、元寇を予感し、「立正安国論」で警鐘を鳴らした日蓮（図3）が身延に草庵を開き、以後その地に築かれた久遠寺は聖地として信仰されていった。

南北朝にさしかかる頃、甲斐出身の夢窓国師（図4）とその法嗣たちがわが国の禅宗の体制を確立していく。足利尊氏とともに京都の南禅寺、天竜寺、相国寺などを拠点に、諸国に安国寺を置き、古代の国分寺のような布教機能を整備した。甥である春屋妙葩（図5）はさらに京都の五大寺院を束ねて五山文学を興隆させ、禅籍を出版して布教に努めたのであった。その五山文化を芸術の粋に高めたのは竜湫周沢（武田氏）、義堂周信、絶海中津など恵林寺ゆかりの禅僧たちであった。

また甲斐は東国において仏教文化の交差する要衝であった。西天目といわれる丹波の高源寺とともに山岳禅の拠点が形成され、東天目大和村栖雲寺にはわが国有数の質の高い普応国師の肖像彫刻（図6）が伝えられた。時宗もまた優れた肖像彫刻を遺し、甲府一蓮寺は最高位である遊行上人を数多く輩出し、優れた往時の文化を今に伝えている。

武田家のもとで篤く保護されて花開いた仏教文化。甲斐出身のトップリーダーがわが国の中枢で活躍した時代であった。

図１．塩山蒔絵硯箱

「志ほの山さしてのいそにすむちとり」
古今集の賀歌を主題とした蒔絵の傑作。

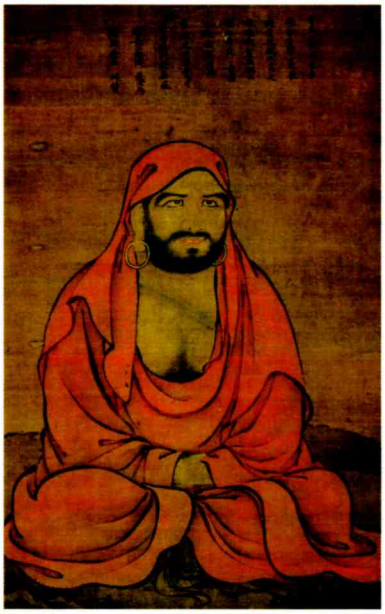

図２．国宝達磨図
（塩山、向岳寺）

蘭渓道隆は甲斐に滞在し、早くから臨済禅の拠点形成が行なわれた。

図３．日蓮上人像

身延に総本山久遠寺のある日蓮宗。宗祖日蓮は「立正安国論」を著して元寇を予言し、襲来した年に身延に移住。晩年をこの地に過ごした。

図４．夢窓国師像

足利尊氏とともに日本的な禅宗を打ち立て、諸国に安国寺を建立。法嗣には春屋妙葩、竜湫周沢、絶海中津らがおり、彼等は京都五山の中心で活躍した。

図５．春屋妙葩像

夢窓国師の甥。甲斐の人。禅僧の最高位である初代僧録となり、五山文学を興し、禅籍を多数出版。日明貿易の折の幕府外交顧問となった。

図６．普応国師座像

天目山栖雲寺安置。開山の業海本浄が中国天目山に普応国師を訪ね、帰国後遠渓祖雄が丹波に開いた高源寺とともに東西の山岳禅の拠点を開いた。

卒業年度	出　　席　　者				人数
昭和18年	渡辺 喜一				1名
昭和21年	加賀美 彰				1名
昭和22年	高山 優二				1名
昭和23年	秋山 哲郎				1名
昭和28年	有野 二夫	尾辻 紀子	塩瀬 治夫	寺田 忠徳	5名
	渡邉 圭子				
昭和29年	小泉 敦夫	越智 幸子	斉藤 好司		3名
昭和30年	鮎川 ますみ	石川 静子	井上 若子	神田 四郎	29名
	呉藤 勢津子	近藤 文子	塩瀬 昭子	塩見 由紀子	
	神宮司 房義	仙洞田 博	仙洞田 洋子	高橋 ふく子	
	武井 篤夫	田中 栄造	田上 百合子	田村　公	
	鶴田 美智子	轟 佐知子	内藤　直	長島 歌子	
	生原 惠子	長谷川 みゑ子	深沢 士郎	松尾　守	
	森澤 正好	八木原 順子	矢崎 仁一	山岸 正道	
	山本 恂子				
昭和31年	淺川 治男	芦澤 修二	石井 澄夫	井上 幸彦	7名
	岩本 福喜	河崎　正	名取　正		
昭和32年	酒田 晴美	佐野 まさる	鈴木　隆	深沢 公子	7名
	牟田 智子	山下 悦子	若尾 和子		
昭和33年	會田 文子	有泉 演美	飯田 冨美子	岩間 小波	21名
	河内 一郎	輿水 俊光	斉藤 由美子	斉藤 芳樹	
	酒井 忠弘	桜井　実	鷹野 幸次	竹口　哲	
	根津 膺子	早川 圭蔵	樋口 裕子	堀口 孝雄	
	三澤 千鶴子	三井 純一	師岡 庄子	矢崎 昌弘	
	渡辺 元成				
昭和34年	伊東　昭	斎藤 峰子	内藤　勲	中村 禮子	7名
	村野 久子	森田　茂	米山 てるみ		
昭和35年	芦沢 正芳	大西　勲	大野 紘一	小笠原 紘子	8名
	古明地 昭雄	作道　恒	志村 昌也	芳賀 嘉幸	
昭和36年	伊東 敬子	太田 東洋男	河合 美保	佐々木 あつ	19名
	佐藤 三四子	佐野 東隆	末木 隆夫	田中 雅子	
	谷口 百合子	田村 久夫	塚越　洋	辻　武司	
	中里 元子	中村 敏男	名取 和男	茂手木 正一	
	山本 正宣	雪江 武雄	渡辺 英美子		
昭和37年	大滝 寛子	川島 民子	黒田 順子	小松 寿恵	7名
	篠原 正邦	土屋 正樹	樋泉 靖志		
昭和38年	雨宮 勝利	雨宮 武士	池田 美子	一瀬　明	31名
	市橋 金之助	臼田　恵	梅澤 梅子	乙黒 克行	
	北村 清巳	駒崎　徹	島津 善美	新海 行子	
	鈴木 紀子	高橋　繁	武内 紘司	武田 信義	
	角田　等	戸川 智子	鳥居 克彦	内藤 道江	
	西川 和宏	祢津 信夫	長谷川 俊彦	廣瀬 修二	
	堀内　高	三川 和子	望月 公雄	矢野 峻行	
	山田 常夫	山本 陽子	渡辺 房男		
昭和39年	飯島 善一郎	大木 芳正	加々美 睦夫	笠井　収	9名
	国富　隆	小林 牧子	斎藤 美都子	波羅 芳武	
	森泉 弘子				
昭和40年	雨宮　喬子	飯田 征央	飯野 文吾	今井　實	22名
	宇野 由美子	小川　健	河下 利江	斉藤 勝人	
	佐々木 仁	鈴木 勝典	中島 公一郎	原　護	
	深沢 保子	藤巻 芳彦	古屋 良一	水谷 園江	
	水谷 康志	三井 元博	茂手木 光博	横森 欣司	
	若木 敏彦	若月 達夫			
昭和41年	越村 美智子	川口 純一	小針 直美	瀬尾 仁美	9名
	関岡 美佐子	手塚 彰夫	中嶋 信子	松岡 啓子	
	山本 秀彦				

昭和42年	宇野 文子	小倉 英雄	川野 昭雄	桑江 彰子	11名
	竹川 正夫	塚脇 一帆	辻　敏子	八田 政恭	
	日野水 仁	古川 啓子	横澤 良次		
昭和43年	池田 秀雄	猪股賢太郎	門西 栄一	沓沢 初美	16名
	斉藤 昇司	竹中 みゆき	丹沢 英二	千葉 陽子	
	土屋 正美	永井　博	中村 岳人	信田 光男	
	古屋 史夫	三高 千恵子	森島　誠	柳本 教仁	
昭和44年	桑木 ちおり	清水　昭	塚本 重美	芳賀 直行	10名
	萩原 能成	早川 美保子	松島 妙子	三田 富貴子	
	峯川 文江	山田 和美			
昭和45年	雨宮 俊彦	飯島 康二	石川　弘	市村 一司	21名
	今井 涼子	岩崎 政彦	大沢 俊彦	小澤 久美子	
	加藤 和之	斎藤　一文	佐々木 まち子	佐野 雅昭	
	設楽 久敬	滝田 和彦	田沼 靖一	永井 桂子	
	三井 三枝子	村上 真理子	望月　敏	百瀬 良彦	
	森田 ひとみ				
昭和46年	飯田 直子	伊佐治 尚子	延命 恵美子	大竹 伸一	43名
	小川 和子	長田 弘之		柿沼 敏子	
	金子 桂子	袖山 真知子	川手 一郎	菊地　健	
	小林 すみ子	斉藤 和美	齊藤　隆	澁澤 たづ子	
	清水　勝	菅野 英雄	杉矢 健一	杉矢 利江	
	鈴木 正恵	仙澤 清美	都築 敏雄	内藤 江里子	
	中嶋 文夫	永田 賢一	仲野 裕子	名取 君子	
	西野 公子	野呂瀬 秀樹	深澤 信子	藤原　篤	
	松木 喜美子	三科 敏美	宮下 次廣	宮崎 佐多子	
	宮崎 まと	望月　栄	矢崎 剛志	矢嵜 裕子	
	山下 惠子	山本 雪子	吉田 美紀子		
昭和47年	岩澤 忠彦	大野 順子	大野 文人	玄間　稔	14名
	河野 美沙子	坂本 永子	末木 浩一	野呂瀬 菊美	
	樋口 陽一	細田　仁	松本 弥生	水沼 まり	
	山田 陽子	米山 敬文			
昭和48年	上田　健	小沢　京子	木下 あや子	武井ちあき	10名
	辻 恵美子	八田 政仁	坡場 美代子	三井 睦美	
	森田 珠美	林野 妙子			
昭和50年	雨宮 久美子	荒井 美津子	海老原 綾子	軽石 泰孝	8名
	窪田 治美	田中 与志子	田辺 俊彦	三神 智美	
昭和51年	内田 功志	海沼 弘忠	子安 美幸	進藤 弘美	10名
	中込 靖成	南波 喜久美	羽田 忠弘	堀内 寛雄	
	武藤 公明	望月 裕子			
昭和52年	伊藤 由佳美	桑本　正	新津 祐史	野中 敏光	7名
	樋川　昇	藤田 早苗	吉川 文代		
昭和56年	神谷 ひとみ	鷹野 由香			2名
合　　計					340名